JTTRI
Japan Transport and Tourism Research Institute

一般財団法人 運輸総合研究所
〒105-0001 東京都港区虎ノ門３丁目18番19号UD神谷町ビル
Tel: 03-5470-8400 / Fax: 03-5470-8401

ローマクラブ報告書「成長の限界」発刊５０周年記念国際シンポジウム
“Transforming Mobility for Humanity”の開催について

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

このたび、1972年発表のローマクラブの第1次報告書「成長の限界」の発表50周年を記念し、ローマクラブ日本とチュラロンコン大学の共同主催、運輸総合研究所等共催により、以下のとおり、国際シンポジウム“Transforming Mobility for Humanity”を開催することになりましたので、お知らせいたします。

チュラロンコン大学のサイト https://www.inter.chula.ac.th/club-of-rome-symposium/に英語のプログラム（日本語のプログラムは別添参照）とともに、オンライン参加の事前登録リンク
https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSf5A8E1JW-7xMpvPoPa72EV3kI0tDsJ7M3QmYTt1PtH5TYIDg/viewform
が掲載されていますので、ご覧いただけると幸いです。

当研究所の宿利会長が開会挨拶を行いますとともに（日本時間11:30～11:45）、ラウンドテーブルI“Mobility and Mortality Risk Challenges”（日本時間15:50～16:35）において当研究所アセアン・インド地域事務所（AIRO）の山下主任研究員・次長がパネリストとして参加し、”Transport Safety in the ASEAN - India Region”と題するプレゼンテーションを行いますので、よろしくお願いいたします。

敬具

日時：２０２２年１２月１４日（水）１１：３０～１８：３０（日本時間）
会場：チュラロンコン大学およびオンライン（Zoom）配信
※日英同時通訳 世界配信
テーマ：“Transforming Mobility for Humanity”
プログラム：別添参照

（参考）
〇ローマクラブ（The Club of Rome）https://www.clubofrome.org/
スイスのヴィンタートゥールに本部を置く民間のシンクタンク。資源・人口・軍備拡張・経済・環境破壊等の全地球的な「人類の根源的大問題(The Problematique)」に対処するために 1972 年に設立。ローマクラブ日本代表兼本部執行役員は林良嗣氏（中部大学卓越教授、名古屋大学名誉教授）。

As of Dec. 1, 2022

ローマクラブ報告書「成長の限界」発刊５０周年記念
国際シンポジウム

“Transforming Mobility for Humanity”

2022 年 12 月 14 日

会場: チュラロンコン大学及びオンライン配信

シンポジウムの趣旨

人間の生命と生活は効率的で安全なモビリティに大きく依存しており、モビリティは人間にとって欠くことのできない要素となっている。近代的な交通システムは、20 世紀を通じて世界の多くの地域で目覚しい産業発展と経済成長に貢献した一方、様々な予期せぬ結果によってあまりにも多くの人命が失われてきた。世界では、毎年約 1 億 3,500 万人が交通事故により亡くなっており、約 5,000 万人が重傷を負っている。一方で、大気汚染は世界で毎年 650 万人以上の死者を出しているが、自動車のからの排出ガスはその主な原因の 1 つとなっている。また交通機関は、気候危機の原因となる温室効果ガスの主要な排出源として責任を持つべきである。

地球の気候が著しく変化し、人類の存続に関わる可能性が出てきた今、モビリティは変革されなければならない。アジアやアフリカの新興国のメガシティにおいて排出は急増している。1972 年、ローマクラブの報告書「成長の限界」は、指数関数的に増加する人口に食糧やその他の資源が追いつかないことを警告した。 同様に、交通インフラ整備も、急速なモータリゼーションの進展に追いつかないのが現状であるが、先進国で開発された技術革新が適合するとは限らない。それ故、我々は行動変容をも求められている。

本国際シンポジウムは、ローマクラブの第 1 次報告書「成長の限界」の発表 50 周年を記念し、人類社会の破滅を避け、価値ある有意義な生活を再構築し、モビリティを変革するための重要な課題と政策オプションに焦点を当てるものである。

日本時間 (GMT+9)	**プログラム**
11:00-11:30	受付
オープニングプレナリー	
11:30-11:45	**歓迎のあいさつ**(5 分) • Bundhit Eua-arporn（チュラロンコン大学総長） **開会のあいさつ** (10 mins) • 野中ともよ（ローマクラブ正会員; 元三洋電機株式会社代表取締役会長兼 CEO） • 宿利正史（ 一般財団法人運輸総合研究所（JTTRI）会長） **MC:** • 吉田美智子（チュラロンコン大学国際室 グローバルネットワーク・エンゲージメント部長）

ポリシーダイアログ: **Mobility for Humanity: Where We Are, Where We Should Be**	
11:45-14:00	**基調講演** (20 分) • *“Sufficient Mobility for People Overcoming Mortality, Carbon Neutrality, and Energy”* ➢ 林良嗣 ローマクラブ執行委員会委員、ローマクラブ日本代表 世界交通学会前会長 中部大学卓越教授 **パネルディスカッション**(150 分) **【パネリスト】** ➢ Sanon Wangsrangboon (バンコク都副知事) ➢ Ahmad Rifai（Kota Kita Foundation 共同設立者・エグゼクティブディレクター ） ➢ Wei-Shiuen Ng（国際連合アジア太平洋経済社会委員会経済担当官） ➢ 林良嗣（ローマクラブ執行委員会委員, ローマクラブ日本代表）

	【モデレーター】 ➢ Apiwat Ratanawaraha（チュラロンコン大学建築学部准教授, ローマクラブ正会員）
14:00-16:00	昼食
ラウンドテーブル：Current Challenges, Future Solutions	
15:30-15:50	**ラウンドテーブルへの導入講演**(20 分) • *“The Futures of Bangkok Mobility 2042”* ➢ Apiwat Ratanawaraha（チュラロンコン大学建築学部准教授, ローマクラブ正会員）
15:50-16:35	**ラウンドテーブル I: Mobility and Mortality Risk Challenges** **トピックとパネリスト:** (7 分 x 3 + 15 分の議論) • *The Outlook for Air Pollution and CO2 Emissions from Transport Sector in Asia* ➢ Cornie Huizenga（アジア開発銀行 Asian Transport Outlook プロジェクト共同代表） • *Transport Safety in the ASEAN-India Region* ➢ 山下幸男（一般財団法人運輸総合研究所(JTTRI) アセアン・インド地域事務所(AIRO)主任研究員, 次長） • *Pandemic Shock in Mobility* ➢ 張峻屹（世界交通学会 COVID-19 タスクフォース共同代表, 広島大学大学院先進理工系科学研究科教授） **モデレーター:** • 福田敦（日本大学理工学部理工学部教授）
16:40-17:25	**ラウンドテーブル II: Alternative Solution Strategies and Instruments** **トピックとパネリスト:** (7 分 x 3 + 15 分の議論) • *Transforming The Energy System to Net Zero: Europe in A Global Context* ➢ Peter Hennicke（ローマクラブ正会員、ブッパータール気候・環境・エネルギー研究所元所長）

	• *The Role of DX in Mobility for Humanity* ➢ Carlos Álvarez Pereira（ローマクラブ副代表） • *Practices of MaaS Systems in Advanced Economies* ➢ 中村文彦（東京大学大学院新領域創成科学研究科特任教授） **モデレーター:** • K. E. Seetharam（アジア開発銀行研究所 Bill & Melinda Gates Foundation タスクマネージャ）
17:30-18:15	**ラウンドテーブル III: Solution Package for Bangkok - SATREPS Sukhumvit Model** **トピックとパネリスト:** (7 分 x 3 + 15 分の議論) • *QOL-MaaS for Urban Restructuring and Behavioral Transformation in Bangkok* ➢ Varameth Vichiensan（カセサート大学工学部准教授） • ・ *Need for Evaluation of QOL in Transportation Planning* ➢ Pawinee Iamtrakul（タマサート大学建築・計画学部准教授） • *Last-Mile Strategies for Decarbonation and Gentrification by Small & Smart Vehicles and Walkable Streets* ➢ 土井健司（大阪大学大学院工学研究科教授） **モデレーター** • Saksith Chalermpong（チュラロンコン大学工学部准教授, 交通研究所副所長）
18:15-18:25	**クロージングリマーク** (5 分 x 2) • 園部哲史教授, アジア開発銀行研究所(ADBI)所長 • 遠藤和重, 国際連合地域開発センター（UNCRD）所長

主催

- ローマクラブ日本

共同主催・オンライン会議ホスト

- チュラロンコン大学

共催

- 一般財団法人運輸総合研究所（JTTRI）・ アセアン・インド地域事務所 (AIRO)
- JICA/JST SATREPS プロジェクト “THAILAND4.0 を実現するスマート交通戦略”
- 国際連合地域開発センター(UNCRD)
- アジア開発銀行研究所(ADBI)
- 世界交通学会(WCTRS)
- 中部大学持続発展・スマートシティ国際研究センター

後援

- 日本環境共生学会(JAHES)
- 社会マネジメントシステム学会(SSMS)